

牧師室から (2021.3.7)

東北にいる時に、コッピーを飼ったことがある。アカヒレとも言われる魚で、1～2センチ位の小さい体で勢いよく泳ぐ可愛い姿に引きつかれて三匹を買ってしまった。丸いガラスの小さな容器に海藻と小石を入れ、私なりに環境を整えてから、そこに入れた。二匹は同じ位のサイズで、一匹が少し大きい。とは言っても体が本当に小さいし、同じようであってもそれぞれ模様と色が若干違うところが面白い。暇があるとコッピーたちの泳ぐ姿を覗いてみるのが楽しい日課になってきた。

ところがある日のことである。一匹が石の間から上がろうとすると、体が少し大きなものが飛んできたように近づいて上から防ぐ。すると上がろうとした子はすぐ下に隠れる。また、上がろうとすると、いつの間にか現れて威嚇をし、小さな子は怯えて沈む。小さな子が動くたびに近づいて、小さな子は身動きができない状態であった。見ている私も息が詰まるほど残忍な行為である。可愛そうだと思って、私が手を入れて近づいたものを離そうとするが、手を離すとまたそのようなことが繰り返される。見苦しくなった私は、その悪者を別の器に隔離させて、二匹を残しておいた。やっとホッとした気持ちになり、何日か過ぎて覗いてみていた私は驚愕した。今までいじめられていた子が他の子を同じやり方でいじめていたのだ。爪先位の小さな魚たちの、そのような行動を見ながら、不思議さと共にいやな気持ちが沸きあがり、見るのに耐えられなくなった私は、近くの北上川に放流してしまった。強く生き延びるか、あるいは、他の大きな魚の餌になるか、あなたたちが招いた道なのよと、その小さな魚たちに、私は本気で怒りながら育児放棄をしてしまった。

後で分かったことだが、コッピーたちの縄張り意識でそのような習性があるようである。追われた子が外に飛び出たり、餌を食べられなくなって死んでしまうこともあるらしい。もっと大きな容器に入れて数を多くするか、大きな魚と一緒に入れるとそのようないじめがなくなるようだが、当時の私は分からなかったのもので、そのような結末になってしまった。

あまりいい記憶ではないが、小さな生き物、虫にもその世界なりの生存競争や生き延びるための習性があることに驚きを感じる。

神様がお造りになった世界にはまさに謎と神秘で満ちている。

(鈴木善姫牧師)